

様式第1号

会 議 録

会 議 の 名 称	令和5年度 第2回 所沢市環境審議会																		
開 催 日 時	令和5年7月28日(金) 14:00~16:00																		
開 催 場 所	所沢市こどもと福祉の未来館 多目的室1・2号																		
出席者の氏名	天野正博、柴田晋吾、鈴木由紀子、秋元智子、本澤智巳、 倉片順司、大庭祥誠、戸邊和幸、羽田野崇、川原博満、坂根裕子、 足立圭子、石川桃子、神谷葵																		
欠席者の氏名	横内ゆり																		
議 題	1 開 会 2 会議の運営についてご説明 3 議 事 (1) 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環境基本計 画)改定版(案)について (2) (仮称)所沢市脱炭素ロードマップ(案)について (3) 所沢市地球温暖化対策実行計画(区域施策編)(案)の促進事 業について (4) その他 4 閉 会																		
会 議 資 料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料1-1 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環 境基本計画)構成について ・ 資料1-2 所沢市マチごとエコタウン推進計画(第3期所沢市環 境基本計画)改定版(案) ・ 資料2 (仮称)所沢市脱炭素ロードマップ(案) ・ 資料3 地域脱炭素化促進事業(促進区域の設定) ・ 資料4 今後のスケジュール 																		
担 当 部 課 名	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">環境クリーン部</td> <td style="width: 50%;">部 長 安藤 善雄</td> </tr> <tr> <td></td> <td>次 長 稲子谷 昂子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>次 長 市川 勝也</td> </tr> <tr> <td>マチごとエコタウン推進課</td> <td>課 長 齋藤 伸宏</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 幹 三浦 直子</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 査 大舘 徹</td> </tr> <tr> <td></td> <td>主 任 濱本 恵代</td> </tr> <tr> <td>みどり自然課</td> <td>課 長 加賀屋 浩介</td> </tr> <tr> <td>資源循環推進課</td> <td>課 長 山屋 貴裕</td> </tr> </table> <p>環境クリーン部マチごとエコタウン推進課 電話 04-2998-9133</p>	環境クリーン部	部 長 安藤 善雄		次 長 稲子谷 昂子		次 長 市川 勝也	マチごとエコタウン推進課	課 長 齋藤 伸宏		主 幹 三浦 直子		主 査 大舘 徹		主 任 濱本 恵代	みどり自然課	課 長 加賀屋 浩介	資源循環推進課	課 長 山屋 貴裕
環境クリーン部	部 長 安藤 善雄																		
	次 長 稲子谷 昂子																		
	次 長 市川 勝也																		
マチごとエコタウン推進課	課 長 齋藤 伸宏																		
	主 幹 三浦 直子																		
	主 査 大舘 徹																		
	主 任 濱本 恵代																		
みどり自然課	課 長 加賀屋 浩介																		
資源循環推進課	課 長 山屋 貴裕																		

様式第2号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
事務局	開会・あいさつ
会長	あいさつ
事務局	出席者の確認、審議会規定より過半数の出席により会議の成立を確認。
事務局	傍聴者1名が入室。
事務局	議題（1）所沢市マチごとエコタウン推進計画（第3期所沢市環境基本計画）改定版（案）について、資料1-1、1-2に基づき事務局より説明。
天野会長	<p>〈質疑応答〉</p> <p>p. 24 「“人と人”、“人と自然”との絆で、子どもたちの未来を紡ぐ エコタウン所沢」とあるが、3つ目の「子どもたちの未来を紡ぐ」というところで「自然」だけでなく「地球環境」も考えて頂きたい。「自然に対して」というのを「自然や地球環境に対して」に変えて頂くと良いと思う。特に地球温暖化は我々の生活に近いところで障壁が出てくるので、イメージをつかみやすいのではないか。</p>
委員	p. 41 目標指標のところ、NO. 3「市内の熱中症による死亡者数」について、死亡者数という熱中症と死亡者数の因果関係がわかりにくいのではないか。普通は「搬送者数」で指標を取るのではないかと思う。
事務局	これまで重点実施計画で「搬送者数」の指標があり、前期の5年間はそれで効果を見ているところではあるが、今回の中間改定に際して熱中症対策の所管課である「保健医療課」に照会したところ、死亡者数に変更したいという意見があったため今回変更した。また、重点実施計画が前期5年で終了するため、今回基本計画に載せたという経緯がある。
委員	p. 51 「一定の資源化率」とあるが「一定」とはどういうことか。

事務局	<p>ごみの適正処理などは市民が協力できるところだと思うが、概略的な内容で書いてあり、理解しにくい。</p> <p>「一定の資源化率」について、資源化率は概ね上昇傾向にはあるが、30%前後で推移をしている。今後おそらく増減がある中で一定の資源化率を維持しているということで記載している。具体的な数値を入れるというよりは、一定の資源化率を維持しているという表現に現段階ではなっている。また、市の事務事業の中では焼却施設で発生するCO₂が一番大きいところになっているため、こちらを減らすには市民の方のご協力が必要というのは重々認識をしている。こちらについては取組施策等である程度具体的な施策を示しており、前回にはなかったような施策も入れて、市民の方と資源化等を進めていきたいということで記載をしている。</p>
天野会長	<p>これから気候変動のことを考えると、今何%なのか認識できた方が良いと思うため、30%という数字は入れて頂いた方が市民にとっては判断しやすいと思う。</p>
委員	<p>30%という数字は入れてほしい。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
委員	<p>p. 86「雨の降り方の変化」の説明において、正確に言うと「水蒸気量」ではなく「飽和水蒸気量」ではないか。確認の上、修正をお願いしたい。</p>
委員	<p>p. 54「⑧再生品やエコマーク商品、グリーンマーク商品など環境への負担の少ない製品の購入や利用を推進し、資源の有効利用やごみの削減に努めます。」とあるが、購入や利用をどのように促進するのか。エシカル消費の講座を開くといったような動きはあるのか。マークなども知らなければ見逃してしまうと思う。</p>
事務局	<p>ホームページや環境啓発冊子などを小学校に配布するなどして啓発に努めているため、引き続きエシカル消費を含めグリーン購入など進めていければと考えている。庁内の事務事業に関しては、関係部署と協力して進めているため、市民や事業者の方にはこれまでの行政におけるメディアなどで啓発していくことを考えている。</p>

委員	<p>それでは、啓発や情報発信などの文言を入れて頂ければよいと思う。</p>
事務局	<p>承知した。</p>
委員	<p>p. 66、67 の 5 項目の指標は従来からこの指標を使っているのか。</p>
事務局	<p>従来からのもので、変更はない。</p>
委員	<p>例えば、p. 67 の「化学物質排出量」について、基準値が 13.4 t と記載されており、目標値は毎年度現状値以下を目指すとして記載されているが、目標値が毎年 13.4 t となっている。この 13.4 t の意味がわからない。また、現状値以下を目指すはずが目標値が常に 13.4 t であることは問題ないのか。</p>
事務局	<p>説明不足なところはあるので、今後加筆をしたいと考えているが、こちらの化学物質は、PRTR 法（特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律）によって適切に管理するものとなっており、その中でもどうしても排出する化学物質については、適切な管理によりなるべく抑えるという仕組みになっている。そのため、当該化学物質が排出してはいけないものではないことを踏まえた上で、目標値は、現状値よりも今後減らしていくということで記載している。</p>
委員	<p>よくわからないが、現状よりは増やさないという方向性ということで、承知した。</p> <p>もう 1 点、p. 67 No. 12「苦情相談解決率」について、現在は 93.2% ということで、それを 95% までに上げるということだが、苦情は現在何件ぐらいあって、どのような解決策を図っているのか、1 年で解決ができるものなのか、そのあたり教えて頂きたい。</p>
事務局	<p>2021 年の相談件数は、1 年間で 108 件となっている。苦情は基本的にはなるべく年内で解決するようにはしているが、長期に長引く場合もある。</p>
委員	<p>p. 100 の「健康分野」について、所沢市の街の中は場所によって</p>

事務局	<p>温度差があるが、廃材のウッドチップを公園に敷いて頂いたところだいぶ温度が下がった。ウッドチップを歩行者用の道路に敷くなど、具体的なヒートアイランド対策が記載されると良いと思う。</p> <p>p.101に「市民生活・都市生活分野」として、みどりの保全ということに記載しているが、具体的な施策について掲載できるか検討させて頂く。</p>
委員	<p>ヒートアイランドについて、この計画では生活環境対策の推進のところにヒートアイランド対策の推進として記載されているが、ヒートアイランド対策は「適応」なのではないかと思う。ここに入れた理由と「適応」には位置付けが入っていない理由はあるのか。</p>
事務局	<p>現行の計画から既にヒートアイランド対策の施策については、生活環境対策の部分に含まれているが、適応計画の施策ではないかというご意見はごもっともであると思う。適応計画の施策をつくるにあたり、本編のヒートアイランド対策の施策も適応計画に併せて記載している。</p>
委員	<p>先程の委員の意見に賛成する。海外の知人も、都内のみどりの少なさに驚いていた。街路樹ができるところはいいが、緑が少ないと思うので斬新な施策があれば良いと思う。</p>
事務局	<p>議題（２）（仮称）所沢市脱炭素ロードマップ（案）について資料２に基づき事務局より説明</p> <p>〈質疑応答〉</p>
委員	<p>p.15「エコリフォームの申請人数」について、毎年250件の増加目標が掲げられているが、申請されたもの以上に申請を希望する人がいると思う。断熱リフォームなど早くやった方がいいものは、前倒しで早くやった方がいいのではないか。</p>
事務局	<p>市としては、スマートハウス化推進補助金として、メガソーラーなどの売電収入を基金として積み立てて補助をしている。財政規模からすると近隣に比べてかなり手厚くしているが、それでも早く補助がなくなってしまう現状がある。予算を多く要求しているが、それでも追いつかないところがある。なるべく多くの方に活用して頂</p>

	<p>けるよう調整をしたいが、基金の状況もご理解いただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>やりたい人はたくさんいると思うので、1年でも早く申請できるようお願いしたい。</p>
<p>委員</p>	<p>省エネの観点では、今後断熱改修が課題となると考えている。躯体の断熱や身近に取り組めるような断熱方法などの情報提供が必要だと思っている。窓を変えることはお金もかかるので、まずはどうすれば身近に断熱改修ができるのか、DIYでもできるような断熱改修の情報提供が必要だと思う。また、中小事業者の脱炭素経営の支援をさせて頂いているが、脱炭素経営についての情報発信も必要なのではないかと思う。県でも省エネ診断が無料でできるようにしているので、少しでも対策できるよう支援をして頂きたい。やはり市民が参加しないと、この脱炭素は進まないと思うので、市民が参加できる仕組みや市民がうまく活用できるような仕組みなどのソフト対策も重点的にやられてはどうか。さらに再エネの観点で言うと、県では、太陽発電と蓄電池、太陽光発電とV2Hなどの補助金を出しており、自家消費を進めているので、家庭の太陽光発電は自家消費を進めていけるようにすることも重要ではないか。全体的にハード対策で補助金を出しても、市民の意識が変わらなければ活用されないのでは、ソフト対策、ハード対策併せて進めていくことが重要だと思う。そのようなところをくみ取って文章化して頂きたい。</p>
<p>委員</p>	<p>p.12の2050年までのイメージについては、ほぼ脱炭素を達成できている図のはずだと思う。そうすると、市民の意識改革や所沢市での連携に向けたメッセージである必要がある。エネルギーなど考えると所沢市の中でクローズするのが一番良いと思うが、例えば、太陽光発電の電力がEVバスにつながっているなど、この図の中の連携が見られた方がより具体的と思われる。市民としても何をやるべきかわかるようなメッセージ性(物語性)のある絵にしてほしい。ZEHのそばに太陽光と蓄電池を記載する、「省エネでTVを消す」などは家の絵の近くにまとめるなど、市民も生活をどう変えていくかイメージできるように工夫をしていただきたい。</p>
<p>委員</p>	<p>ロードマップや基本計画において、一年ごとに目標を立てているが、その実績は毎年公表されているものなのか。</p>

事務局	毎年「所沢市の環境」という冊子を作成し、目標指標の実績や取組施策について公表している。
委員	例えば、途中でその数値に届かない際の変更などもそこに記載されるのか。
事務局	記載している。指標を達成できた要因や結果など振り返りは行っている。
委員	ロードマップにある区域施策編の施策には施策番号が付されているが、基本計画とロードマップは冊子としては2冊別になるのか。
事務局	別の冊子になる。
委員	別冊となるのであれば、2冊セットでないとわかりづらい。1枚にまとめて印刷できればとも思ったが、それだと紙の無駄にもなる。QRコードなど紙をなくす方向になっていけば良いと思う。
委員	せっかく作るなら実行力のあるもので、市民が実際にできるようなものを作って頂きたい。
委員	p. 49②について。街を見ていると、新しい家は建つが、新しい公園はできないという印象がある。みどりや公園が少ないと感じる。市民を巻き込むならば、子どもが生まれるときに保護者が木を植えるなどできると、子どもと木と一緒に育っていくように実感が伴って伝わりやすい。小学生などに環境のことはなかなか伝わりづらいので、自分たちが体験・実感できるようなものがあれば良いと思う。
事務局	子どもと一緒に木を育てるとするのは、非常に良いと思うので検討させて頂きたい。公園を新しくつくるといったハード面の施策は難しいが、新しいまちづくりが行われるようなエリアでは積極的に緑が多い公園を増やしていくようなことも記載できればと思う。
委員	緑を植える際には、木なら何でも良いというわけではなく生物多様性という感覚で行って頂きたい。また、p. 42の施策番号6-1-1-①について、取組主体が市だけとなっているが、こういう会議があるときはわざわざ市から出ていくのではなくオンラインでも良いと

	<p>思う。そして、そこで得た情報を市民にも共有してもらいたい。また、p. 20 環境保全活動の写真でブロワーを使っているが、環境保全で落ち葉を掃くのになぜ電気やガソリンを使うブロワーを使っているのか不思議に感じる。そこでは生物多様性にも十分考慮頂きたい。</p> <p>それと、家庭などでは日よけや風通しを良くするなどの対策によっても工夫はできると思う。診断士は要らなくて、昔の知恵があると思う。日よけをうまく使い風通しを良くすると、大規模な工事をしなくてもお金をかけなくてもできるということを頭に入れてほしい。</p>
委員	<p>p. 19 に「みどりを活用した間接的な緩和策」における「所沢市まちなかみどり保全地区」というのは、農地も含んでいるのか。また、実績値の 1.04ha は非常に少ないと思うが、これを増やす余地はないのか。例えば大きな木を保存樹などに指定して保存していくなどの工夫はできないのか。</p>
事務局	<p>農地が入っているかどうか調べて回答する。また、書きぶりなど検討させて頂く。</p>
委員	<p>p. 18 の「環境にやさしい農法の推進」とあるが、こちらは三富地域のことか。確か世界農業遺産になったかと思うが、そうであればそれをアピールしたい。</p>
事務局	<p>こちらは落ち葉堆肥農法の写真なので、アピールできるよう書きぶりを考えたい。</p>
事務局	<p>補足させて頂くが、先程の「所沢市まちなかみどり保全地区」に農地が入るのかというご質問について、農地は入っていないので、別の方法で緑地を増やす方法を講じる必要がある。</p>
天野会長	<p>農地からも温室効果ガスが出ていることもあるので、農地が入ると緩和策にならない場合もあるため、気を付けてほしい。</p>
委員	<p>市町村によっては出産祝いに樹木をプレゼントされる場所もあると思うのでそういうものが所沢市でもあると良いと思う。出産祝いとして市町村から何かもらえると守られているという気持ち</p>

	<p>が出てくるので、その意味でもぜひお願いしたい。また、太陽光の助成金が所沢市では多いというのは他のところを知ってわかったので、引き続き助成金を出して頂きたい。</p>
委員	<p>所沢市の公共施設における学校などの施設において、断熱改修ができていないことがある。事務事業編の対策としても、そのような老朽化した施設での断熱改修を行って頂きたい。</p>
事務局	<p>議題（3）所沢市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）の促進事業について資料3に基づき事務局より説明</p>
	<p>〈質疑応答〉</p>
委員	<p>促進地域と決めるのはいつのタイミングなのか。</p>
事務局	<p>計画改定に合わせるので、令和6年3月に公表されることとなる。</p>
委員	<p>協議会などで合意形成を図った後に促進地域が決まるということか。</p>
事務局	<p>協議会では促進事業について話し合う。促進区域自体はその前のロードマップが発行された時点で設定される。</p>
委員	<p>促進区域ができた後に意見を交わすとなると、意見を戦わせるというよりも、促進前提で協議することになるということか。</p>
事務局	<p>意見を戦わせるという認識で間違いない。促進事業について事業者と意見を交わすことになる。</p>
委員	<p>営農型の太陽光発電も対象になってくるのか。</p>
事務局	<p>基本的には市街化区域になるので、市街化調整区域である畑などは対象にならない。ソーラーシェアリングは一つの方策であると考えているので、例えば荒廃農地や遊休農地などを利用したソーラーシェアリングの事業が出てきた場合には、審議会で判断して認定するか決めるということは可能性としては考えられる。</p>
委員	<p>そのような明確な考えがあるのであれば「所沢市の促進区域」と</p>

	<p>して明確に記載した方が良いのではないかと。</p>
事務局	<p>農業委員会事務局や農業委員の方などは別の視点もあるので、書きぶり等検討させて頂く。</p>
委員	<p>促進地域は、計画に落とし込むのか、それとも条例などに載せるのか。どれだけ拘束力があるのか、どれだけの規模で協議を行うのか。さらに、ワンストップで認可が受けられるという利点がある中で、審議会などで議論すると時間がかかると思うが、そのあたりはどうか。</p>
事務局	<p>促進区域はこの計画に明確に載せる。また、必ずしも全て審議会を経なければいけないものではなく、規模が小さいものや近隣住民の合意形成が必要でないものもあると考えている。合意形成を得られやすい、関係許可手続きがワンストップでできるという特例をインセンティブに導入を目指しているものなので、どこまで規制するのかということではないことはご理解頂きたい。</p>
委員	<p>認可しない場合、規制はあるのか。</p>
事務局	<p>審議会で認可されなかった事業について、その案件が中止になるようなことはない。促進地域はあくまでポジティブゾーニングであり、事業を行う方が事業を進められやすいように設定するものなので、発電事業を中止するようなものではない。</p>
委員	<p>「所沢市の促進区域」のところで「原則として」という言葉を除いてほしい。原則は例外もついてくるので、市街化区域ということで進めていただきたい。</p>
事務局	<p>荒廃農地や遊休農地におけるソーラーシェアリングの事業が出されたときに、市街化区域に限定してしまうと協議ができなくなってしまうため、「原則として」という言葉を入れている。</p>
委員	<p>遊休農地でも有機農法などしたいという方も増えており、そのようなところがソーラーシェアリングの設置場所になってしまう可能性があるため、「原則として」という言葉を除いてほしい。「緑の保全」というのがあれば、なおさら「原則として」という言</p>

	<p>葉を除いてほしい。</p>
事務局	<p>検討させて頂く。</p>
委員	<p>ソーラーパネルについて、生態系が崩れることまで含めて考慮しているのか。フロートソーラーを設置してから、野鳥が来ない、処分の問題が生じている地域もある。市民にとって、どのようにプラスになるのか。</p>
事務局	<p>野鳥の飛来は確認できている。釧路の湿原で生態系の問題が生じていると聞いたが、そこまでのレベルではない。廃棄の問題については、脱炭素社会の実現に向けては有効な方策の一つであり、このような計画を作っている。市だけでは難しいので、県や国、事業者とも連携しつつ情報収集をして、不法投棄などを防いでいきたい。</p>
天野会長	<p>生物多様性を理由にすることは簡単だが、実は一つずつ判断できるのではないか。「市街化調整区域は一切手を付けない」としてすべて却下することもできるが、一方で、地球温暖化を考えると決めた範囲以外はアンタッチャブルでいいのか。それがここでいう協議なのだと思う。それがないと温暖化が進んでしまう。それは野鳥にとっても不利なことである。「この場合は協議する」と明確にすれば納得していただけるかと思う。</p>
委員	<p>学校でできることは限られているが、今の学校の現状として、SDGs や環境問題など教科書の記載も変わってきていることと子どもたちの意識も変わってきているのを感じている。それをどこで表現できるかということで、そのようなものを発表できる場というのがもっと広がれば良いと考えている。また、資料2のp.20における「学生への環境教育」とあるが、これが小学校や中学校であれば、学生ではなく児童・生徒と改めた方が良いと思った。</p>
天野会長	<p>国も地域を限定して様々な脱炭素モデルを作りたいと考えているようだが、これは産業界も一緒になって進めていくことだと思う。産業界の委員もいるのでご意見を伺いたい。事業者向けアンケートの回答率が6%程度でもあったので、考えを聞きたい。</p>
委員	<p>産業界と言われたが、他の委員から良い意見ばかり出ていたので</p>

	<p>申し上げることはないと思った。ここで言うのはふさわしくない話だが、ここまで木を植えるという話が出ていて、実際に落ち葉を掃除する処理等を考えると、木なんかいないという住民も多い。掃除も手間だし、事業者が落ち葉を集めると法人ごみになって有料ごみで捨てることになる。落ち葉公害と感じている人もいると思う。時々綺麗にさせていただいたり、落ち葉の捨て方を改善していただけると嬉しい。</p>
委員	<p>太陽光発電を設置するにしても、なかなか最適なところが見つからないのが実状である。そのような中で再生可能エネルギーを増やしていくのは難しい。ロードマップの中でも電化・水素化というのがあったが、水素化には e-methan や e-fuel など開発中の多様なエネルギー源も含まれているため、コラムでもそのような紹介があると良い。</p> <p>また、資料 1-2 の p. 25 において、赤字の「2050 年までに」とあるが、こちらは「2030 年までに」だと思うので修正いただきたい。それと、資料 1-2 の p. 41、No. 2 の文では、2028 年度までに 48.5MW とあるが、年度目標値を見ると、2028 年度は 65.3MW となっているのでこちら間違いではないか。また、目標値が 2030 年と 2028 年と記載されているところがあるが、最終目標値が 2030 年度とあるものは 2030 年度で説明したほうが良いと思った。</p>
事務局	事務局から今後のスケジュールについて説明
	閉 会